

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

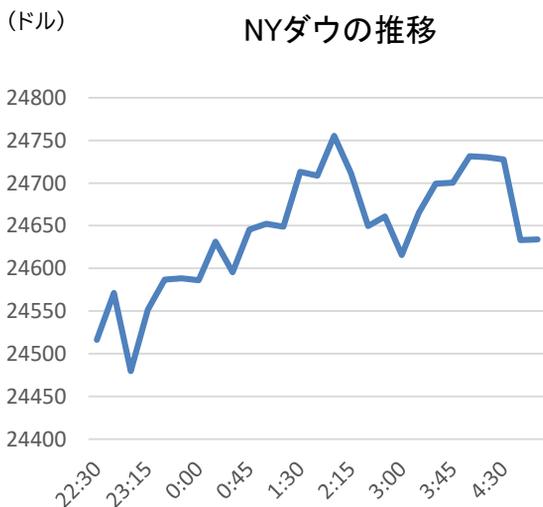
概要

米連邦準備理事会(FRB)は、4月28-29日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で、フェデラルファンド金利(FF金利)の誘導目標を0～0.25%に据え置きました。また、米国債と住宅ローン担保証券を無制限に購入する量的緩和政策などの現状維持を決定しました。

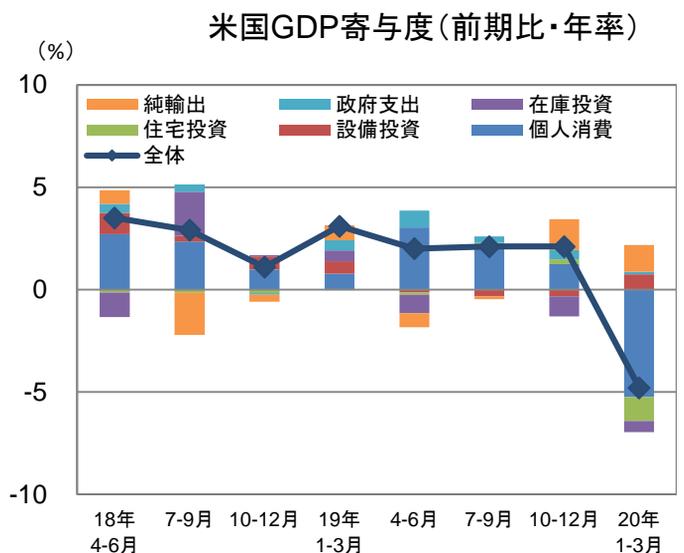
声明文では、コロナショックによる米国経済への厳しい現状を認識した上で、「米国経済が最近のイベントをしのご、雇用最大化と物価安定の目標達成が軌道に乗るまで、足元のゼロ金利政策を継続する」としました。また、「非常に厳しい環境下で米国経済をサポートするために全ての政策手段を使い、雇用最大化と物価安定という2つの責務を果たす」とし、必要となればいつでも追加緩和をいとわない覚悟を表明しました。

市場の反応

29日に発表された米国の2020年1-3月期の実質国内総生産(GDP)速報値は▲4.8%(前期比年率、以下同)と、四半期ベースで2014年以来のマイナスとなりました。4-6月期のGDPは更に一段と落ち込む事が予想されており、景気後退入りが確実視されています。2009年6月から始まった景気拡大期間は、約11年にも及び、過去最長となりましたが、遂に終わりを迎える見通しです。しかし、市場はほぼ予想通りのFOMCやGDPの結果に対して、ほとんど反応しませんでした。当日、市場が最も反応したのは、ギリアド社の抗ウイルス薬レムデシビルが、新型コロナウイルス感染症の臨床試験で、患者の早期回復を促したとの発表でした。この発表を受けて、治療薬の早期開発期待が高まり、ダウ工業株30種平均(NYダウ)は532ドル高の2万4,633ドルで取引を終えました。市場は、当局の金融政策と財政政策については概ね満足しており、株価は、過去の経済指標よりも、経済活動再開やワクチン開発などの材料に反応しやすい状況にあるようです。



(期間)2020/4/29 22:30~4/30/5:00 日本時間
(出所)Bloomberg



(期間)2018年4月-2020年3月
(出所)米国商務省

評価及び今後の見通し

今回のFOMCは、政策金利も量的緩和も現状維持を決定し、市場予想通りの内容でした。パウエル議長はマイナス金利に対して否定的であり、政策金利は前回(3月15日)の緊急利下げで限界まで引き下げたと認識しているものと思われます。また、パウエル議長は記者会見で、財政悪化懸念(による金利上昇)が政府の経済対策の妨げとなる事があるとはならないと述べており、政府の財政支出と歩調を合わせて量的緩和を進めていくものと思われます。財政拡張で金利上昇圧力が高まれば、ールド・カーブ・コントロール(YCC)政策を導入する可能性もありますが、暫くは、市場の様子を見ながら量的緩和政策の調整を都度行うのではないかと見ています。

(ご参考)今後の主要イベント

	日本	米国	欧州
4月			30日:ECB理事会
6月	15-16日:日銀金融政策決定会合	9-10日:FOMC	4日:ECB理事会

出所: Bloomberg